

【導入事例紹介】 物流支援ロボット CarriRo® 凸版情報加工、物流拠点における作業効率向上を目指し導入 —カルガモ機能による運搬効率アップ。IC タグと連携し省人化促進へ—

株式会社 ZMP(東京都文京区、代表取締役社長:谷口 恒、以下 ZMP)が販売する物流支援ロボット CarriRo(キャリロ)が、凸版情報加工株式会社の物流拠点において作業効率向上を目指し導入されました。この度、弊社ウェブサイトにて事例を公開いたしましたので、お知らせいたします。

【CarriRo 導入事例紹介】 凸版情報加工株式会社

https://www.zmp.co.jp/carriro/detail_tjk.html



凸版情報加工株式会社は、トッパングループの一員として出版物や広告媒体の製本・加工を中心とした業務をおこなっています。最終の仕上げを担当する非常に重要なポジションであり、モノづくりを実感できる仕事とも言えます。製本で培った技術や経験をベースに、様々な付加価値のある新しいサービスにも取り組んでいます。

同社は、物流拠点における作業効率の向上と作業負荷の低減を目的に、キャリロを導入し、試験運用を開始いたしました。キャリロについて、同社システム物流管理部の高橋弘行氏、漆原哲矢氏は、「作業者につけたビーコンを自動追従するカルガモモードは、これまで数回に分けて運んでいた荷物や商品を一度には運ぶことができるため、作業効率が格段に向上します」とコメントされています。また、「カルガモモードでは、真後ろにいるときは『すぐ後ろにいます』とか、設定速度よりも早く歩くと『ゆっくり歩いてください』と声をかけてくれます。作業者が検知範囲から外れると『いなくなっちゃあ』と声優の声で知らせてくれる“萌バージョン”まであったり結構気が利いています」と、キャリロには仕事を楽しくしてくれる一面もあると、同氏はコメントされています。

今後の展開として同社は、ZMP が開発中の自律移動機能とトッパングループの技術を組み合わせ、自律走行をしながら棚の荷物の RFID タグ*を読み取り、システムと連携させることで、無人で棚卸を行い、検品や在庫棚卸業務の省人化の促進を目指しています。



(*情報を埋め込んだ IC タグから、無線通信によって個別情報を自動認識するシステム)

【CarriRo について】

CarriRo はジョイスティックによる操作ができるドライブモード、およびビーコン(発信機)を自動追従するカルガモモードを有した台車型物流支援ロボットです。充電式で最大 150kg の荷物を 8 時間連続で運ぶことができ、倉庫や物流センター内のピッキング業務の効率化や、工場内の工程間搬送において利用されています。

[ウェブサイト] <https://www.zmp.co.jp/carriro/>

[動画] <https://youtu.be/a1Tw9W7IDYE>

【価格】

5 年リース 月額 28,000 円(税別) / 1 台

【本件に関するお問合せ】

株式会社 ZMP CarriRo 事業部 営業 新井/塚田

TEL: 03-5802-6901/FAX: 03-5802-6908 Mail: info@zmp.co.jp

【株式会社 ZMP】

<http://www.zmp.co.jp/>

本社: 東京都文京区

代表取締役社長: 谷口 恒



RoboCar® 1/10 RoboCar® MV2 RoboCar® MiniVan CarriRo® CarriRo® Delivery

「Robot of Everything 人が運転するあらゆる機械を自動化し、安全で、楽しく便利なライフスタイルを創造する」というミッションのもと、①ADAS(先進運転支援)、自動運転開発用プラットフォーム RoboCar®シリーズ及びセンサ・システム、②移動体メーカー(自動車、商用車、建設機械、農業機械、物流搬送機器、屋外作業機械等)向け自動運転等の開発支援、実験代行 RoboTest®, ③物流支援ロボット CarriRo®の開発・販売を行っています。また、2020 年の無人タクシー実現に向け、公道での技術及びサービスの実証実験を重ねています。2017 年からは日本初の歩道走行を目指す宅配ロボット CarriRo® Delivery の実証実験を開始いたしました。ZMP はこれからも世の中に感動を与える製品やサービスを提供してまいります。